

別 記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2024年 7月 30日

(宛先)

滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
京セラ株式会社 代表取締役社長 谷本 秀夫
(代理人) 滋賀野洲工場長 山田 新一

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項→第25条第4項
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項

の規定に基づき、事業者行動計画を 策定 (変更)
事業者行動報告書を作成したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	京セラ株式会社 代表取締役社長 谷本 秀夫
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6

1 事業所の概要

事業所の名称	京セラ株式会社 滋賀野洲工場								
事業所の所在地	滋賀県野洲市市三宅800								
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	2	9	9	9	※ 産業分類・細分類名称を記載 その他の電気機械器具製造業			
事業の概要	ソーラエネルギー製品・液晶ディスプレイ・医療用製品・半導体有機製品製造、研究開発								
従業員の数	1940人			操業時間		7.75(8:45～17:30) 時間/日			
該当する事業者の要件	☒ 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者								
	☐ 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者								
	☐ 任意提出事業者								
主要な設備	ボイラ	9	台	熱源設備	9	台	照明設備	多数	台
	コンプレッサ	9	台	空気調和設備	多数	台	その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2022	年度	報告対象年度	2023	年度
	終了年度	2024	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

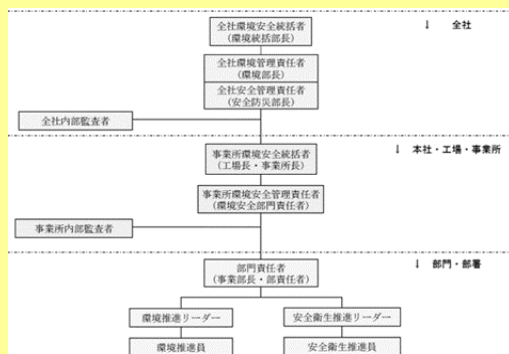
◆京セラグループ環境安全方針◆

京セラグループは、事業活動にあたり、マネジメントシステムの運用を通じて、経営理念を基本とした環境安全に関する取り組みを積極的に推進し、環境安全パフォーマンスの継続的な改善を行います。

- ・環境安全に関する法令、当社の同意した事項および自主基準などを順守します
- ・地球環境の改善に貢献する商品や、製品のライフサイクルを通して環境負荷を低減した商品の研究開発及び普及・拡大を図ります
- ・バリューチェーン全体で温室効果ガス排出量を抑制し、地球温暖化防止に貢献します
- ・環境負荷の少ない材料等の調達、新規資源投入量や廃棄物排出量の最小化に努め、持続可能な資源の利用を図ります
- ・自然環境への負荷を極小化し、守り育てることにより、生物多様性保全を促進します
- ・様々なステークホルダーとコミュニケーションを図ると共に、社会貢献活動への参画・支援を行います
- ・事故災害の無い安全で安心して働ける職場の実現に向けて、事業活動に関わる全ての人が、全員参加で活動を行う企業風土をつくります
- ・リスクアセスメントを実施し、危険源の除去等によりリスクを低減することで、事故災害の防止を図ります
- ・心身の健康増進を図り、従業員が、健康で働きがいを感じ、能力を最大限発揮できる労働環境をつくります

上記方針に基づきCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に貢献してまいります。

2 取組の推進体制



- 環境安全統括者：ESMSに必要な人的資源、専門的な技能、組織のインフラストラクチャー、技術、資金(財務資源)を確保・采配し、継続的改善を図る。
- 環境安全管理責任者：ESMSの運営を推進する。
- 内部監査者：ESMSが適切に運用され、維持されているかを監査する。
- 部門責任者：① 部門におけるESMS活動を推進する。
② 部署単位で「環境推進リーダー」、「環境推進員」及び「安全衛生推進リーダー」、「安全衛生推進員」を選任するとともに、指揮監督する。
- 環境推進リーダー：部門責任者の指揮を受け、環境推進員を指揮監督するとともに、所管部署内のEMS活動を推進する。
- 環境推進員：環境推進リーダーの指揮のもと、職場の責任者等と協力し、所管部署におけるEMS活動を推進する。
- 安全衛生推進リーダー：部門責任者の指揮を受け、安全衛生推進員を指揮するとともに、所管部署内の安全衛生活動を推進する。
- 安全衛生推進員：安全衛生推進リーダーの指揮のもと、職場の責任者等と協力し、所管部署における安全衛生活動を推進する。

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

- ボイラー設備に関する取組
 - ・運用改善：都市ガス燃料設備の優先稼動
 - ・フロー量の削減
 - ・供給圧力の低減
 - ・低空気比による運転の徹底
- ターボ冷凍機に関する取組
 - ・冷凍機の集約化運転
 - ・冷水送水温度の見直し
 - ・熱交換器によるフリークーリングの実施
 - ・ボールクリーニング装置設置
- 空調設備に関する取組
 - ・空調の運転時間・設定温度の徹底
 - ・間欠空調の実施
 - ・室内へのサーキュレーター設置による空調温度斑の低減
 - ・外気導入量の調整による空調負荷の低減
 - ・クリーンルーム非稼動時の換気回数の変更
- 空気圧縮機に関する取組
 - ・圧縮機の吐出圧力の低減
 - ・圧縮機のアンロード時間の削減
 - ・冬季の圧縮機吸込み温度の低減
 - ・エアードライヤーの集約化によるロス削減
 - ・エアー漏れ調査、修繕
- 照明設備に関する取組
 - ・新建屋の廊下にLEDの導入
 - ・トイレ、廊下の照明に人感センサーの導入
 - ・照明設備の間引きの実施
- その他の取組
 - ・力率の改善：進相コンデンサの調整
 - ・太陽光発電システムの導入
 - ・省エネ機器、最新生産機器の積極的な導入
- 推進活動
 - ・環境推進委員会、省エネ推進委員会の開催
 - ・環境月間、省エネ月間の設定
 - ・環境出前授業の実施(太陽電池を題材にした授業)

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	作業場照明のLED化により電力の削減をする。	2022～2024年度	順次実施中
2	設備導入	ターボ冷凍機の制御及び送水方式見直しによる電力の削減をする。	2022～2024年度	2022年度実施済
3	運用改善	ポンプの非稼働時及び不要設備電源の停止による電力の削減をする。	2022～2024年度	適宜実施中
4	設備導入	老朽化した変圧器を最新の変圧器に設備更新しロス低減による電力削減をする。	2022～2024年度	2022年度実施済
5	設備導入	井水送水ポンプの更新及び適正容量への見直しにより電力の削減をする。	2022～2025年度	2022年度実施済

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果 ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施 スケジュール	取組の実施状況
1	HFCs	冷凍機更新に伴うフロン使用量削減	2022～2024年度	計画通り実施中
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
省エネ法努力義務(原油換算エネルギー単位の年平均1%削減)	想定内

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度前 年度の実績	実績報告				
			2022年度	2023年度	()年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー 使用量	kL	38,563	34,667	29,492			
温室効果ガス 総排出量	t-CO ₂	59,839	46,770	48,257			
エネルギー起源 CO ₂	t-CO ₂	57,904	44,444	48,257			
非エネルギー起源 CO ₂	t-CO ₂	0	0	0			
CH ₄	t-CO ₂	0	0	-			
N ₂ O	t-CO ₂	249	356	-			
HFCs	t-CO ₂	28	41	-			
PFCs	t-CO ₂	683	748	-			
SF ₆	t-CO ₂	975	1,181	-			
NF ₃	t-CO ₂	0	0	-			
エネルギー等原単位の推 移		178.000	154.700	172.900			

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	再生可能エネルギーの導入	2022～2024年度	計画中
2	廃棄物リサイクルの推進	2022～2024年度	適宜実施中
3	工場環境施設見学の受入	2022～2024年度	当年実施なし
4	廃棄物輸送に伴うCO2の削減	2022～2024年度	適宜実施中
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	再生可能エネルギーの導入
2	廃棄物リサイクルの推進
3	工場環境施設見学の受入
4	廃棄物輸送に伴うCO2の削減
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	1,282 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告			
			2022年度	2023年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	1,519,132	1,482,011	1,474,962		
上記のうち自家消費量	kWh	601,479	507,854	504,051		

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
○蓄電池生産を通じたCO ₂ ネットゼロ社会づくりへの貢献 滋賀野洲工場では、大容量タイプのリチウムイオン蓄電池を生産しています。 大容量蓄電池を用いて、日中に太陽光パネルで発電した電気を蓄電しておき、その電気を夜間に利用することで、夜間電力を削減し、温室効果ガス排出削減に貢献するものです。 本計画期間において、蓄電池システムを社会へ供給するための蓄電池生産を通じて、CO ₂ ネットゼロ社会作りを推進していきます。	継続中
	CO ₂ 削減貢献量
	— t-CO ₂

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
目標： 蓄電池の生産を通じて社会に供給される蓄電池システムにより「使用」段階での、二酸化炭素排出削減に貢献する。
考え方： 貢献量は、生産実績を基に社会に供給される蓄電池システムにて算出する。

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
継続中(数値の公表なし)
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠
—

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			2022年度	2023年度	2024年度	()年度	()年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂						
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂						
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh						
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			2022年度	2023年度	2024年度	()年度	()年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂						
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	リモートワー クの促進	在宅勤務の制度化により、通勤による人の移動を低減	2022～2024年度	適宜実施中
2	リモート会議 の促進	Teamsによるリモート打合せを行い、来訪者の低減	2022～2024年度	適宜実施中
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

		計画開始年度 前年度の 保有台数	実績報告				
			2022年度	2023年度	2024年度	()年度	()年度
保有車輛の数	台	0	0	0			
上記のうち 次世代自動車等の 数	台	0	0	0			
特記事項							

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	SDGs	太陽光発電設備の導入	2022～2024年度	検討中
2	3R	廃棄物リサイクル率99.5%を維持する。	2022～2024年度	継続中
3	SDGs	工場環境施設見学の受け入れを継続実施	2022～2024年度	継続中
4	3R	産業廃棄物排出量の削減対策継続	2022～2024年度	継続中
5				